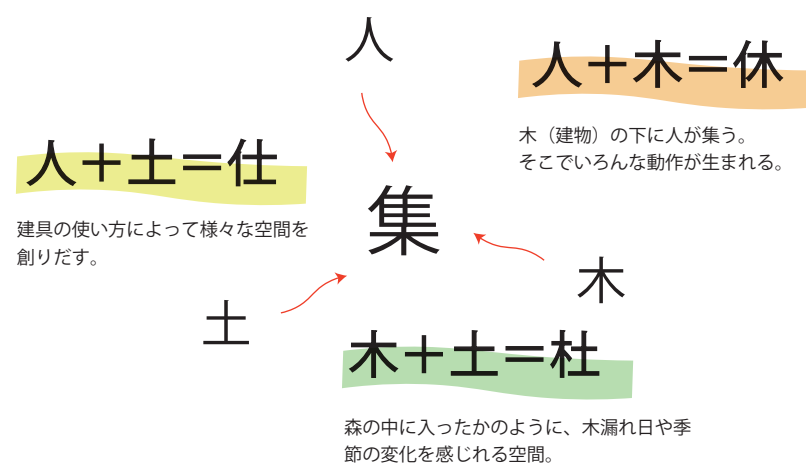


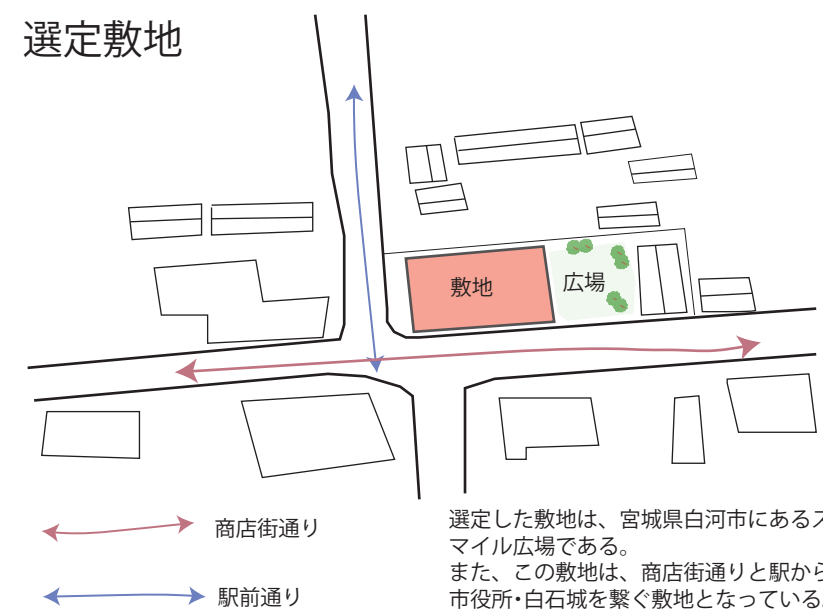
集う

和紙のプロセス

1 関係性



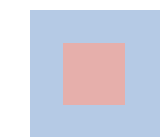
選定敷地



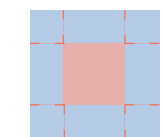
2 平面構成



木が中心となり、木の下で様々な出来事なされる。この住宅もその役割となるように構成していく。

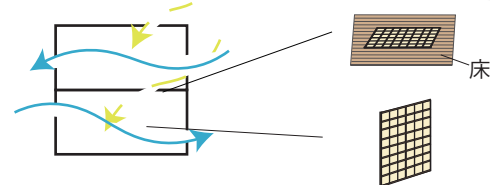


工場などでは、外には見えなく閉鎖的な環境であるが、中心に工房があり、その周りでWSや会議などができる空間を作る。



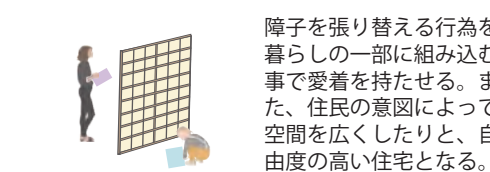
中心にリビングなど家族が集まる場所を作り周りを建具で囲む。

3 環境



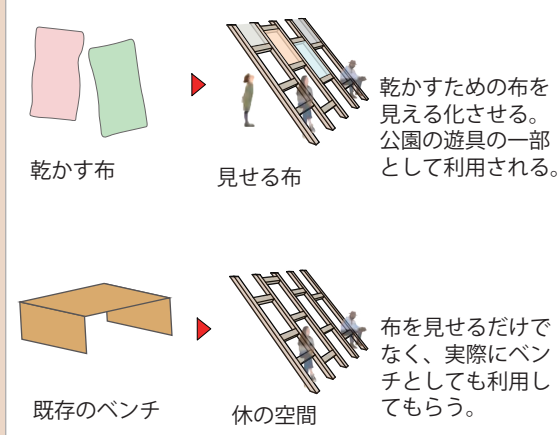
1階と2階を繋ぐスラブにガラス和紙を用いた空間を作る。木と木の間に注がれる木漏れ日空間のような柔らかい光の演出。建具の開閉により、風だけではなく、光・視線などが抜ける。障子で、間接的にも直接的にも人気が感じさせる。

4 張り替え



障子を張り替える行為を暮らしの一部に組み込む事で愛着を持たせる。また、住民の意図によって空間を広くしたりと、自由度の高い住宅となる。

5 公園との関係



乾かすための布を見る化させる。公園の遊具の一部として利用される。

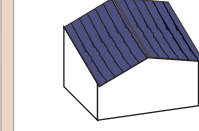
布を見せるだけでなく、実際にベンチとしても利用してもらう。

屋根架構



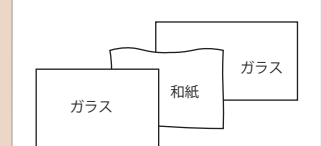
和紙をアートとして見せることで、和紙を身近に感じさせる。また、地域の伝統工芸品を使うことでアイデンティティの強化を測る。

7 風土



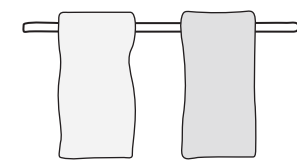
城下町であり、切り妻屋根や瓦屋根が多く見られる。また、1階に商店スペースで2階に住宅用途があることからこの建物も用途や素材感を合わせていく。

8 和紙 × ガラス

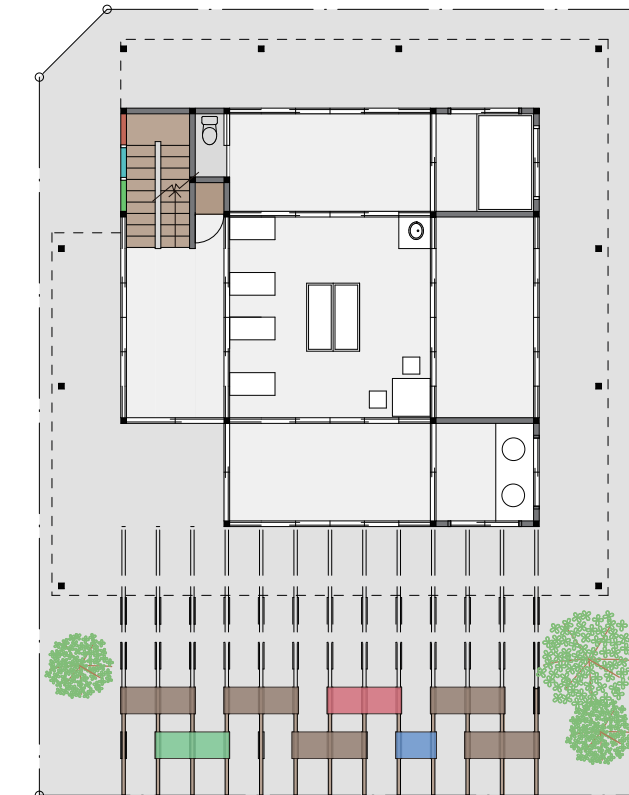


ガラスとガラスの間に薄い和紙を挟み込む。光は和紙により淡くすかされる。建材としての新たな和紙の利用方法の可能性を広げる。

9 和紙 × 土



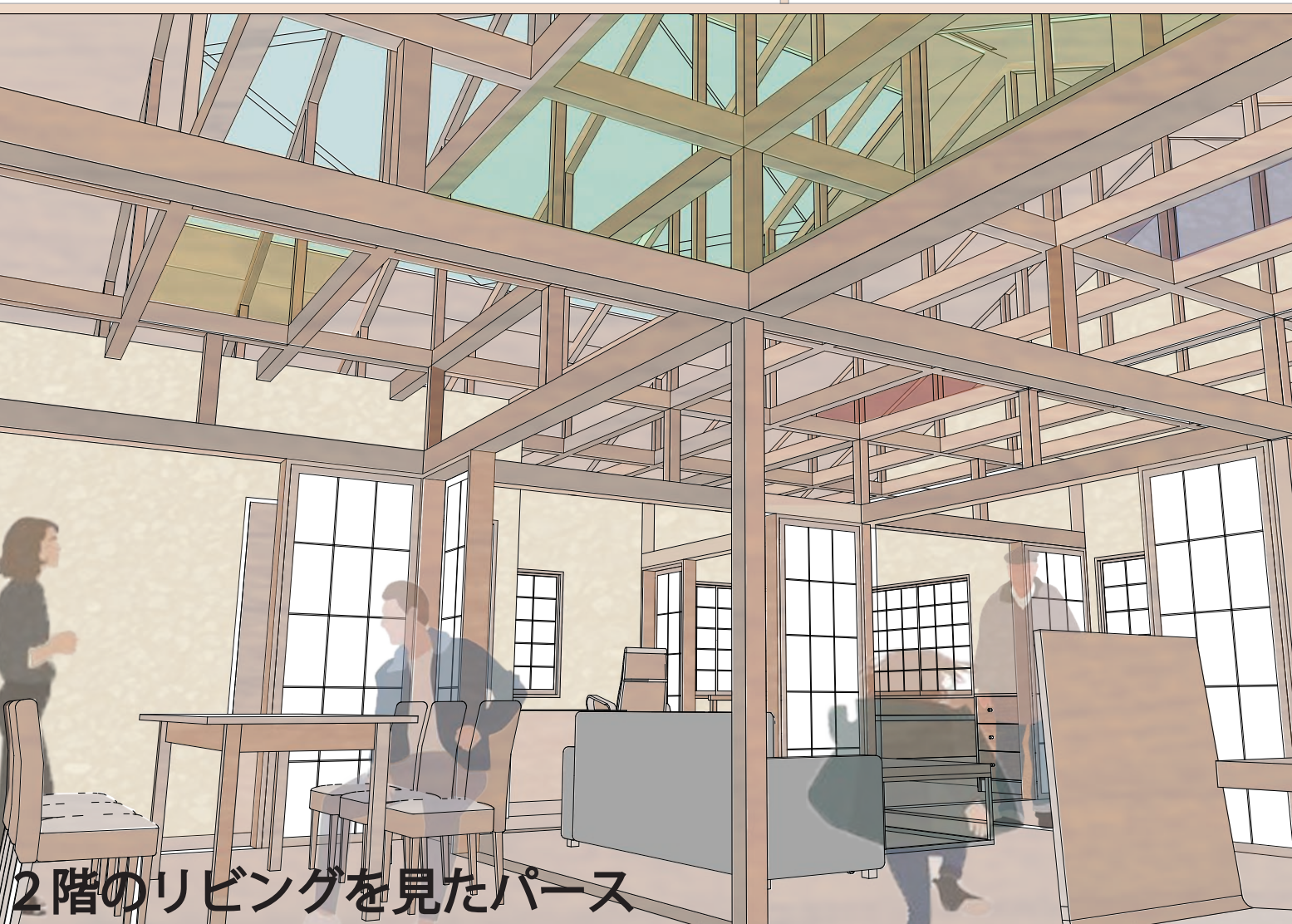
日本には、土入り紙があり、その仕組みを取り入れる。一言で「土」と言ってもすべて異なるもので、自分が住むその土地の色がそのまま和紙になる。愛着がわく。



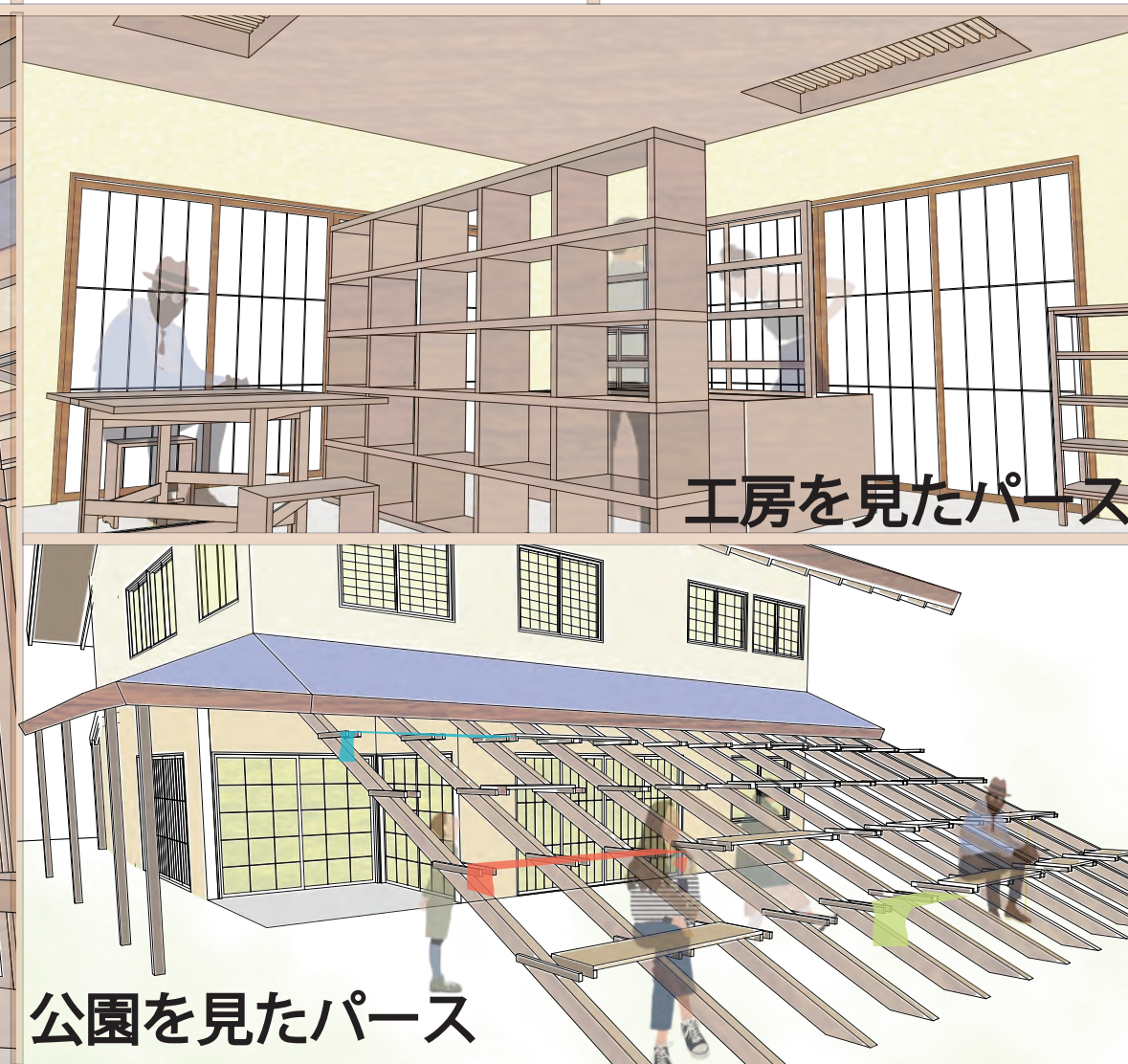
配置図兼 1 階平面図 S=1/200



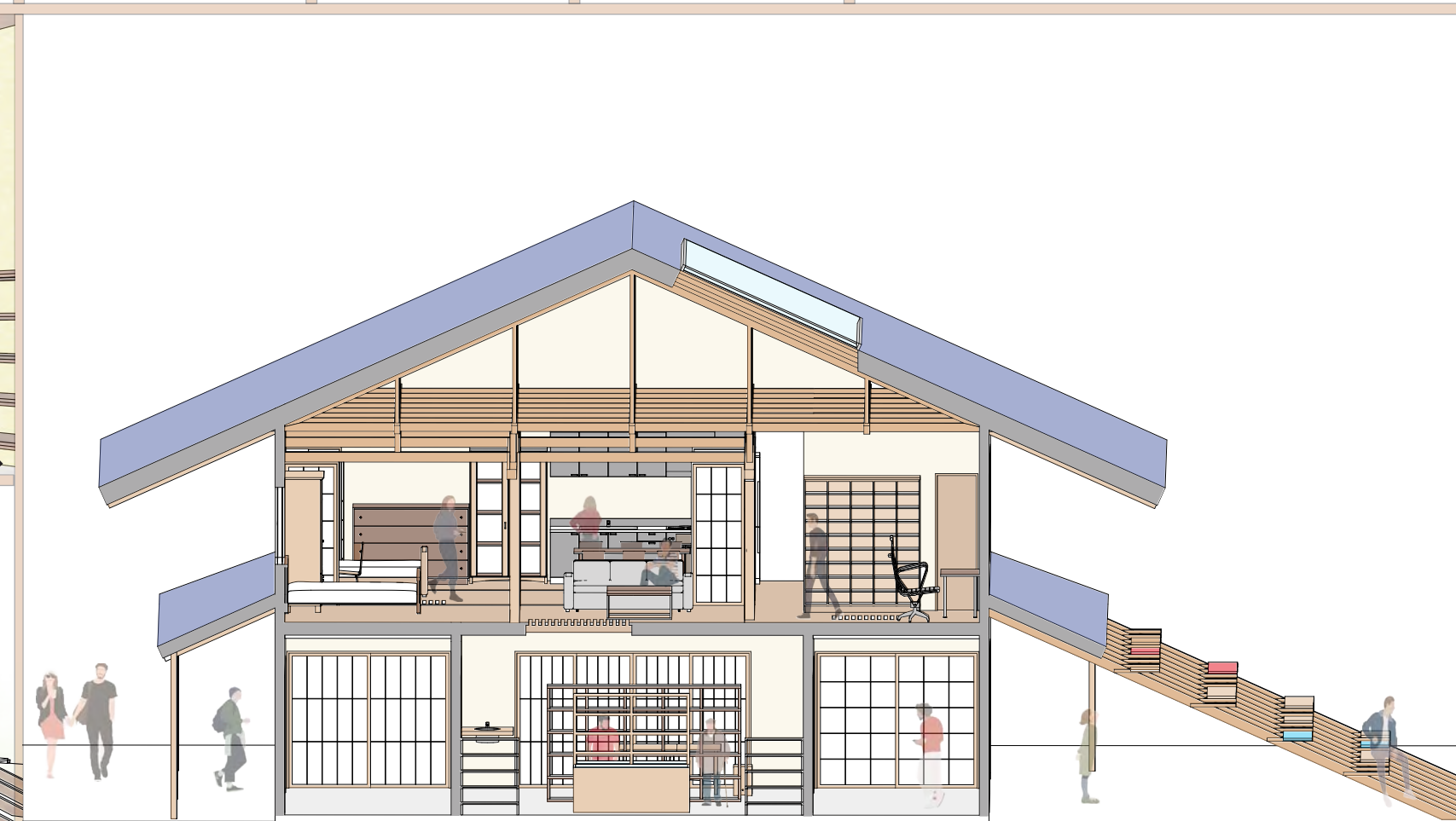
2 階平面図 S=1/200



2階のリビングを見たパース



公園を見たパース



断面パース S=1/100